

### 3回市議会決算にて

## 学校のトイレに生理用品設置求める 市答弁「市全体で総合的に検討する」



日本共産党  
よっちゃん通信  
2022.11/2.214号

私、宮坂良子は、昨年4月から小・中学校のトイレに生理用品を設置した大和市の取組みを紹介し、狛江市でも学校のトイレに生理用品の設置を求めました。

### 大和市 トイレに設置

大和市・学校トイレに生理用品設置



大和市では、「コロナを要因とする経済的な理由が発端ですが、経済的な困窮以外の理由でも自由に使うてほしい」としています。中学校では、事業開始前の保健室利用は、80枚だったのが、1カ月で634枚の配布となり、ニーズが高かったことがわかりました。養護教諭からは「生理の周期が安定しないなか、自分から言い出せない子どもにとって、安心して学校生活を送れることにながっている」と話します。子どもたちからは「安心して過」せる

ようになった」との声が届いています。

### 安心して送るために

私、宮坂良子は、なによりも、子どもたちが安心して学校生活を送るためにも、学校のトイレに生理用品を配置することが重要と求めました。

教育部長は「生理用品はすでに学校に備えており、必要に応じて児童生徒に手渡す体制は整えています。新たに学校で配付するご提案に関しては、その必要性を市全体で総合的に検討していくべきものと考えています。教育委員会としては、引き続き他自治体の取組みの効果や手法を注視していきます」と答弁しました。

### 生理の尊厳学び

健康や尊厳に関わる重要な課題です。また、生理は女性の身体として生まれれば誰でも起こる現象であり、体や心の不調のため、勉強や体育に身が入らないなど、教育機会にも影響を及ぼします。さらに、生理は「恥ずかしい」「誰にも言えない」ということが多くあります。生理用品の配布が生理について子どもたちが、オープンに学ぶ機会として、リップダクティブ・ヘルス・ライツの観点から、生理の尊厳としての学びを深めていくことなどが重要であると提案しました。